

第14回御南中学校区ふれあいウォーキング大会

世界的なコロナ禍の中、岡山市でも400人を超える患者が発生しています。不要不急の外出を控えるよう要請されているところでありましたが、今年も西・御南愛育委員会では、社会福祉協議会等の協賛を得て、外での活動が縮小される中ですが、マスク・三密に注意しながら開催することを決定しました。

当日の開会では、健康みなんにし21の蔵元会長の音頭によるストレッチを参加者一同で行い、「御南学区のええとこコース」を訪ねて(6km)出発。



御南西公民館



→ 御南中学校・大森先生頌徳碑



→ 今保通学橋



→ 快神社



→ 大賀邸・今保港→



御南小



→ 蟹八幡宮



→ 久米通学橋



→ 御南西公民館



途中の民家にて

快晴の下、約90名の参加者に恵まれ、3年ぶりの御南学区歩き、今保・久米の「いいとこ」を見学できたと、喜ぶ声も聞こえ無事公民館に帰り、全員に参加賞をお渡ししました。

とき 令和2年11月29日(日)10時~11時45分 全員完歩でした。 御南学区愛育委員長

田中律子

雑記帳

詫び・さびの世界と外国人



近年グローバル化が叫ばれ、外国人の数が目立って増えている。彼らと、文化・風習を超えてお互いに理解し共生することが求められるが、どのようにつき合って行けばよいのかよくわからないのが正直なところだ。

先日、拓殖大学の教授呉善花(オ・ソソファ)さんの講演を興味深く聴かせて頂きなるほどと納得した。

彼女は韓国済州島の出身だが、日本に留学してから30年余り、日本が大好きになり日本国籍を取得した。だが、日本大好きが仇となり、母国韓国から疎んぜられ入国が禁止され、親戚の不幸や結婚式にも帰れなくなってしまったという経歴の持ち主である。

彼女が指摘するのは日本という国は世界に稀な文化がある。来日してしばらくは、人に対して優しいし親切、落としたりした財布が戻ってくる。韓国で教えられた日本とまるで違っていた。この国はいったい何なのかと感動し、心地よく過ごせたのだ。

しかし、3年ぐらいたつと、文化・習慣の違いから居心地が悪くなった。感性の違いに堪えられなくなったという。

集団の中で相手の意思を読み取り、争わずに調和を保つ。黙っていても分かるだろうとか、以心伝心ということがわからなかった。

また、満月よりも少し欠けていたり、雲がかかっている方が美しいとか、満開の桜よりも散りゆく桜、落ち葉やこけに覆われた岩などに趣を感じる美意識。一言でいえば詫びさびの世界だ。これらが素晴らしいと感じるようになるのに5年かかった。それから本当の日本最良になったという。

日本人のDNAは無意識の中にも詫びさびの世界をしっかりと受け継いだ行動をとっているのだが、これを旨く説明できないのが課題なのかもしれない。

日本を正しく理解してもらい、真の友情を深めることは簡単なことではないようだ。

(独り言)

